

健保だより

スタンレー電気健康保険組合

平成30(2018)年度決算のお知らせ

「令和」とともに“人生100年時代”の幕開け 健康長寿社会の実現のため 皆さまを支えつつ財政の健全化に努めます

スタンレー電気健康保険組合の平成30(2018)年度決算が、去る7月19日の第142回組合会で承認されましたのでお知らせします。

当健保組合の平成30(2018)年度の決算は、収入34億1,532万5千円に対し、支出27億9,068万6千円、経常収支差引額で3億8,312万7千円の黒字となりました。

しかし、保険料収入の増加により黒字となったものの、増え続ける高齢者医療制度等への莫大な納付金、医療費の増加など、当健保組合を取り巻く厳しい環境は依然として変わっていません。

5月に元号が改められ、10月には再延期されていた消費税率10%への引き上げが実施されるなど、新たに始まった令和元年(2019)度は変化の大きな年です。“人生100年時代”といわれる中で団塊世代の高齢化が進んでおり、健保組合の義務的経費となっている納付金の負担が今後さ

らに増大することが見込まれています。このままでは健保組合の財政危機がさらに深刻化するのには必至で、高齢者の医療を支える社会保障制度の見直しが令和時代の急務となっています。

当健保組合では、財政健全化に向けて事務の徹底した合理化等を行い、さまざまな支出削減を図ってきました。その一方、人間ドックなどの健診事業を充実させつつ、生活習慣病予防のための特定保健指導や重症化予防などを実施してまいりました。また、第2期データヘルス計画に基づき、皆さまが健康長寿を実現するために効果的な保健事業を行っています。

皆さまも適正受診やジェネリック医薬品の利用などを通じて、引き続き当健保組合の運営にご理解とご協力をお願いいたします。

平成30(2018)年度 収入支出決算概要

健康保険分

● 保険料収入がわずかに増加
 健保組合の主な財源である保険料収入は、平成29年度決算比4.7%増となりました。

● 枯渇が懸念される、不足分を補うための別途積立金
 保険給付費や納付金の増加への対応として、別途積立金を繰り入れて対応します。しかし、別途積立金にも限りがあるため、今後枯渇の恐れもあります。

● 病気やけがの治療などのための保険給付費は増加が続く
 医療の高度化等により保険給付費の増加傾向が続いています。平成29年度決算比では2.8%増加となりました。

● 健保財政の大きな負担となっている高齢者医療への納付金
 高齢者社会を支えるため、義務的経費となっている高齢者医療への納付金は、保険料収入の41.9%を占め、依然として健保財政を圧迫しています。

収 入 (千円)		被保険者1人 当たり収入額(円)
保 険 料	3,125,618	556,259
基 本 保 険 料	1,746,047	310,740
特 定 保 険 料	1,379,571	245,519
国 庫 負 担 金	756	135
調 整 保 険 料	46,022	8,190
繰 越 入 金	14,157	2,519
国 庫 補 助 金 収 入	200,000	35,594
財 政 調 整 事 業 交 付 金	9,235	1,644
雑 収 入	18,173	3,234
	1,364	243
合 計	3,415,325	607,817
経常収入合計	3,128,022	556,687

支 出 (千円)		被保険者1人 当たり支出額(円)
事 務 費	43,714	7,780
保 険 給 付 費	1,287,617	229,154
法 定 給 付 費	1,240,682	220,801
付 加 給 付 費	46,935	8,353
納 付 金	1,310,463	233,220
前 期 高 齢 者 納 付 金	600,114	106,801
後 期 高 齢 者 支 援 金	703,219	125,150
そ の 他	7,130	1,269
保 健 事 業 費	100,279	17,846
還 付 金	943	167
財 政 調 整 事 業 拠 出 金	45,777	8,147
連 合 会 費	1,191	212
積 立 金	378	67
雑 支 出	324	58
合 計	2,790,686	496,651
経常支出合計	2,744,895	

決 算 残 金	624,639千円
経常収支差引額	383,127千円

介護保険分

● 負担増が続く納付金
 介護準備金を繰り入れ、不足金に対応
 高齢者の増加により介護納付金が高水準で推移しています。不足分は介護準備金からの繰り入れで補います。

収 入 (千円)		支 出 (千円)	
保 険 料	337,117	介 護 納 付 金	334,569
繰 越 金	432	還 付 金	123
繰 入 金	10,000	積 立 金	0
雑 収 入	4,114		
合 計	351,663	合 計	334,692
決 算 残 金		16,971千円	

組合の現況

(2019年3月末現在)

- 被保険者数 5,570人 (男性 4,635人、女性 935人)
- 平均標準報酬月額 384,564円
 (男性 403,920円、女性 283,423円)
- 総標準賞与額(年間合計) 9,315,039千円
- 平均年齢 42.13歳 (男性 42.79歳、女性 38.91歳)
- 被扶養者数 5,163人
- 前期高齢者加入率 1.464890%
- 健康保険料率 1,000分の90
 (事業主 1,000分の45.0、被保険者 1,000分の45.0)

- 一般保険料率 1,000分の88.70
 (事業主 1,000分の44.35、被保険者 1,000分の44.35)
- 基本保険料率 1,000分の49.550
 (事業主 1,000分の24.775、被保険者 1,000分の24.775)
- 特定保険料率 1,000分の39.150
 (事業主 1,000分の19.575、被保険者 1,000分の19.575)
- 調整保険料率 1,000分の1.3
- 介護保険の対象となる被保険者数 3,095人
- 介護保険料率 1,000分の14.4
 (事業主 1,000分の7.2、被保険者 1,000分の7.2)

家庭での食中毒予防の ポイント

食材を買う

- ・消費期限を確認する
- ・肉や魚などの生鮮食品や冷凍食品は最後に買う
- ・肉や魚などは汁が他の食品に付かないように、分けてビニール袋に入れる
- ・寄り道をしないですぐに帰る

保存

- ・帰宅したら生鮮食品はすぐに冷蔵庫へ保管する
- ・肉や魚は汁が漏れないように包んで保存する
- ・冷蔵庫は詰め込み過ぎない、冷凍庫はきちんと並べて詰める

調理の前

- ・調理の前に丁寧に手を洗う
- ・食材は流水できれいに洗う
- ・冷凍したものはレンジで解凍

調理

- ・肉や魚は十分に加熱。中心部分の温度が75℃で1分間が目安

食事

- ・食事の前にせっけんで手を洗う
- ・作った料理は、長時間、常温で放置しない
- ・温かいものは暖かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食べる

残った食品

- ・作業前に手を洗う
- ・清潔な容器に保存する
- ・保存して時間が経ち過ぎたものは思い切って捨てる



菌を

付けない

増やさない

やっつける

気温の高い夏の時期は、細菌による食中毒が多くなります。家庭での食べ物の扱いや保存に注意して、食中毒を予防しましょう。

食中毒というと、飲食店での食事が原因と思われるがちですが、家庭での食事が原因の場合も少なくありません。

予防策は菌を「付けない」「増やさない」「やっつける」が基本となります。まず、徹底的に「洗う」こと。細菌が食べ物に付かないように、手、食材、調理器具をしっかりと洗いましょ。次に細菌の増殖を防ぐために、「低温で保存し早めに食べる」こと。菌が増殖し

ないように保冷パックなどで低温を維持し、できるだけ早めに食べるようにします。調理の際に特に重要なのが「加熱すること」。加熱は細菌を死滅させるために最も効果的です。食材は中心部まで(75℃で1分間が目安)、十分に加熱してください。

気温が高くなるこれからのシーズンは、食中毒を起す細菌やウイルスが身近にいることを意識して、食中毒の予防を心掛けましょ。

夏を元気に
乗り切る

「冷房病」対策で体調管理しよう！

なんとなく体がだるい、食欲もない、この暑さだから夏バテかな？

ちよつと待ってください。

1日中冷房のきいた部屋にいて、

夏バテはないでしょう。

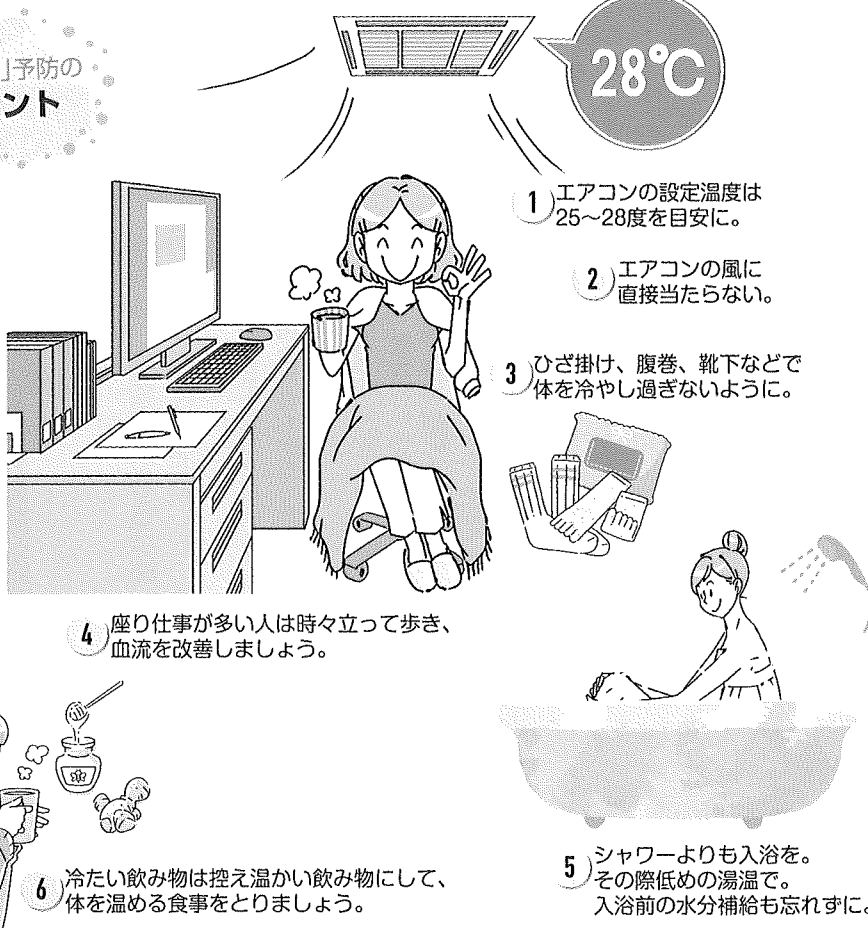
それは「冷房病」ではありませんか？

暑い夏には、冷房のきいた部屋は天国のようです。しかし、そこに落とし穴があります。人間の体は5度以上の急激な温度変化に素早く対応することが難しいといわれています。気温の著しい変化が繰り返されると自律神経に変調をきたしてしまうのです。この状態を一般的に「冷房病」と呼びますが、これは病名ではなく冷房での冷え過ぎが原因の「自律神経失調症」の一つです。

自律神経は、体温調節以外にも胃腸の働きやホルモン分泌の調節も行っています。したがって、体の冷え、肩凝り、食欲不振、腹痛、生理不順、不眠等々、人によってさまざまな症状が現れます。

現代人の生活に冷房はなくてはならない存在となりました。この冷房をうまく使いこなすには、室内温度に注意をし、自分の体の調子に意識を向けて、冷房病から自身を守る工夫が必要です。

「冷房病」予防のポイント



健保組合の議員に交代がありました

退任された方には在任中のご協力を感謝申し上げます(敬称略)。

退任	就任
大杉 浩邦	大矢 能成
石川嘉納芽	高野 浩和
大塚 郁夫	福本 勤文
大野 克司	白石 和也
林 健太郎	鷹取 賢
柴田 和彦	沖世 伸二